

2009年4月10日

各 位

熊本県熊本市南熊本三丁目14番3号  
株式会社トランスジェニック  
代表取締役社長 山村 研一  
(コード番号 2342 東証マザーズ)  
問合せ先 IR・広報担当 森田 貴子  
電話番号 078-306-0590

### 「GANP®マウス技術」に関する特許が欧州にて成立

株式会社トランスジェニック（代表取締役社長：山村研一、熊本県熊本市）の基幹技術「高親和性抗体作製技術—GANP®マウス技術（以下 本技術）」に関する基本特許が、欧州において成立したことをお知らせいたします（特許番号EP1559318）。

このたび欧州で成立した特許は、熊本大学大学院 医学薬学研究部 阪口薫雄教授らにより発明された本技術を広くカバーする特許であります。なお、本技術に関する特許は、すでに中国で一部成立しているほか、オーストラリアで成立しています。

当社は、本技術を用いて高い特異性と親和性を持つ抗体を開発しています。この結果、得られた成果の一部は研究用試薬として販売するほか、診断薬・抗体医薬の開発を目的として本技術のライセンス供与をしています。

また、2009年1月には国立がんセンターとともに本技術を活用した新規腫瘍マーカーの網羅的探索を開始し、新たな診断用抗体の開発への取り組みを加速しています。

今後も引き続き、当社は、本技術が当社の事業展開に資するよう国内外での知的財産の確保に向けて取り組むとともに、GANP®マウス技術による画期的な診断用抗体・治療用抗体の創出に向けて研究開発ならびに事業を推進してまいります。

なお、現時点においては、本件が当社の業績に及ぼす影響は未定であります。今後、重大な影響を与えることが判明した場合には速やかにお知らせいたします。

以上

#### ご参考：GANP®マウス技術

遺伝子改変マウス「GANP®マウス」を用いて、親和性ならびに特異性の高い抗体を作製する当社独自の技術です。当社は、本技術を抗体関連の技術プラットフォームにおける基盤技術と位置づけ、自社製品開発に活用しているほか、製薬企業・診断薬メーカーなどへ本技術のライセンス供与を行い、ライセンス収入・ロイヤリティ収入の獲得をめざしたビジネスを展開しています。

- ◆ GANPとは？（GANP: Germinal Center Associated Nuclear Protein）  
熊本大学阪口薫雄教授らにより発見された遺伝子で、抗体を産生するB細胞で発現しています。
- ◆ GANP®マウスとは？  
GANP 遺伝子を導入したマウスです。

参考文献: Sakaguchi N. et al., J Immunol. 2005 Apr 15; 174(8):4485-94.

